

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

C
2026
MAY
[第2065回]



29歳で《第4番》を書いたあとも、
ショスタコーヴィチは体制側の厳しい検閲と
自身の目指す芸術の板挟みの中で
苦闘を強いられる

©IKE

四半世紀を経て日の目を見た超大作

ドミートリ・ショスタコーヴィチ

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

名作にもかかわらず、お蔵入りになってしまう作品があります。ショスタコーヴィチの《交響曲第4番》も、初演の直前に作曲者自身が楽譜を取り下げてしまい、いったんお蔵入りになりました。若きショスタコーヴィチの創作意欲がみなぎる複雑で長大な野心作でしたが、それゆえに、スターリンの体制下、「健全でわかりやすい」音楽を良しとした当局から「作品を撤回せよ」という圧力を受けたからだとも言われています。初演が実現したのはそれから25年後のこと。スターリンはすでに亡く、ショスタコーヴィチの傑作はようやく世に出たのです。